

ASC 文法カフェ

長谷川 信子 (ASC・顧問)

第8回のテーマは、「**複文と準動詞**」です。

- **準動詞**とは、動詞の形が、**不定詞(原形)**か**分詞(現在分詞の-ing形、過去分詞の形(規則動詞なら-ed形、不規則動詞なら-en形など))**の表現で、準動詞を用いた典型的な例は、以下の「青字の部分」です。これらの用法、わかりますか？
 - a. Mother told me [to take care of my sister].
 - b. [To solve this problem], we need someone [to talk to].
 - c. I got acquainted with the woman [teaching English to young children].
 - d. We finally solved the problem [cooperating with each other].
 - e. I managed to solve the problem [helped by my friend].
 - f. I love to eat anything [cooked by my mother].表現h
 - みなさんは、中学・高校の時に、準動詞は「句」とされ、「節」(文)とは別に扱われてきたかと思えます。(当時の学習指導要領での扱いです。)また、これらは、導入時期も、様々で(予備校などでの例外はあるでしょうが)上記のような文を統一的に扱われてこなかったでしょう。
 - 今回の文法カフェでは、「**準動詞**」と「**従属節**」との関連性を明確にして、**準動詞を「節」と考えることの利点を様々な角度から考え、その上で、「通常の節」との違いも明確化させます。**
 - 先ず、動詞には「文の核となる」という機能を持っていますが、その機能が準動詞にも「踏襲」されています。ですから、**動詞との関わりで出てくる要素(準動詞の目的語など)は準動詞にも不可欠要素となります。**つまり、準動詞表現は、準動詞だけの問題ではなく、準動詞を含めた「カタマリ」を考える必要があるのです。その「カタマリ」は「従属節」と共通する点が多いのです。
 - **従属節と似ている**、ということは、従属節の基本的機能(使われ方)を持っている、ということです。つまり、(A) **名詞的**、(B) **形容詞的**、(C) **副詞的**な機能を持つということです。
 - (A) **名詞節**——目的語や主語が節。
 - (B) **副詞節**——副詞的要素(時、条件、理由、場所など)が節。
 - (C) **形容詞節**——名詞を修飾する要素(つまり、形容詞的な要素)が節。
関係節、関係副詞節のこと。
- 上記の準動詞表現も、これらの「節」と同様の機能・用法を持っています。どれが、どの用法だと思えますか? どうしてそう判断したか、説明できますか?
- 準動詞は、従属節と似た性質・機能をもっていますが、違いもあります。先ず、**見た目が違います**ね。**従属節より<短く、簡潔な>表現**になっています。つまり、準動詞には、**独立した時制や助動詞はなく、通常、主語もない**のです。そして、欠けている時制と主語は、主文との関連で解釈されます。ですから、準動詞表現は、「節(時制を持つ従属節)」で言い換えられるものが多いです。上記の例文の準動詞、従属節で言い換えられるものがありますか?どれですか?言い換えてみて下さい。

今回の「文法カフェ」では、**準動詞表現を通して、英語の「文の構造」全体を整理**します。